

平成29年度 施策評価シート

基本目標	Ⅱ	地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	220	区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる
施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する
施策の目標	鉄道立体化による踏切事故防止や渋滞解消、また、道路のバリアフリー化等により、誰もが安全・安心で快適に暮らせる交通環境が整備されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	道路バリアフリー整備延長									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	10,290m				13,080m					14,630m
実績										
指標名	「区内の交通環境に満足している」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	79.0%				82.0%					85.0%
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
交通バリアフリー事業は、鉄道事業者に対し、区内の駅に点状ブロック等の施設整備をした場合に、経費の一部を助成するものであり、事業者と協力しながらバリアフリー化を進めている。 福祉のまちづくり推進事業は、施設を整備する個人・中小企業者・非営利法人等に経費の一部を助成するものである。 バリアフリーマップは、平成22年度に作成し、平成23年4月から墨田区公式ホームページにアップしている。公共施設のほか民間の店舗等も掲載している。	H28	2,148
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	区内駅ホームの点状ブロックについては、29年度の整備をもってすべての区内駅に設置が完了する予定である。

4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
○	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
安全で快適に移動できる空間を確保するため、引き続き、交通施設や公共的性格を有する建築物の整備をする者に対し経費の一部を助成する制度は存続させ、整備を図っていく。	
【今後の具体的な方針】	
交通バリアフリー事業は、ホームドアの設置要望など新たな課題があり、事業内容について検討が必要である。福祉のまちづくり推進事業(施設整備助成)については、区のホームページや区報、チラシなどでPRしていく。バリアフリーマップについては、内容の充実に努めていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	福祉のまちづくり推進事業 (民間施設整備補助)	0	整備基準に従って建築物を整備することにより、障害者や高齢者を含むすべての区民が、公共的性格を持つ建築物を安全かつ快適に利用することができる。	1	→	現状維持
				0		平成28年度
2	福祉のまちづくり推進事業 (バリアフリーマップ運営)	2,148	バリアフリーマップを墨田区ホームページにて公開するとともに、視覚障害者のために、地図などの画像ではなく「ことば」による道案内を行う「ことばの道案内」を公開することにより、安心して外出し、行動範囲を広げられる。	180	→	現状維持
				180		平成28年度
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

平成29年度 事務事業評価シート

施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	部内優先順位					
事務事業	福祉のまちづくり整備事業（民間施設整備補助事業）		1					
事業概要	東京都福祉のまちづくり条例施行規則に定める整備基準に従って建築物を整備する者に対し、その経費の一部を助成する事業		主管課・係（担当）					
			厚生課厚生係					
			5608-1163					
施策への 関連性	整備基準に従って建築物を整備することにより、障害者や高齢者を含むすべての区民が、公共的性格を持つ建築物を安全かつ快適に利用することができる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	国や都の事業から漏れてしまう案件を対象としているため、事業の代替は難しく、区が実施する必要性がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	民間施設整備補助件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4	37	目 標	1	2	2	2
				実 績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目 標	3	3	3	4	4
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	補助事業のため、補助件数を指標とした。目標値については、平成28年度まで利用がほとんどなかったが、平成29年度から要件を緩和したことによる利用増を見込んだ数値とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
			目 標					
			実 績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目 標						
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	0							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	少ない又は減少傾向				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	必須だが裁量余地あり				
判断理由					
近年、民間施設整備補助事業の利用はないが、事業の必要性は増している。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
バリアフリーのまちづくりに必要な事業である。		2	5	4	4
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
区民の方が使いやすくなるように、平成28年度に要綱を改正したが、積極的なPRに努める必要がある。					
中間・最終年度の講評	利用が少ないため、区民が利用しやすいように工夫する必要がある。				
今後の方向性	区内の小規模店舗や医療機関等を、すべての区民が安全かつ快適に利用することができるバリアフリー化を目指し、制度の周知をさらに徹底していく。				

平成29年度 補助金評価シート

補助金 名称	福祉のまちづくり整備事業（民間施設整備補助事業）						主管課・係（担当）	
根拠法令	墨田区福祉のまちづくり施設整備助成金交付要綱						厚生課厚生係	
事業概要	東京都福祉のまちづくり条例施行規則に定める整備基準に従って建築物を整備する者に対し、その経費の一部を助成する事業						5608-1163	
							事業の終期	
							平成37年度	
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	国や都の事業から漏れてしまう案件を対象としているため、事業の代替は難しく、区が実施する必要性がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	民間施設整備補助件数				単位	件
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		4	37	目標	1	2	2	2
				実績	0			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	3	3	3	4	4	4
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	補助事業のため、補助件数を指標とした。目標値については、平成28年度まで利用がほとんどなかったが、平成29年度から要件を緩和したことによる利用増を見込んだ数値とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
				目標				
			実績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標								
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
		0						
		H35	H36	H37	〔予算の傾向〕			
施策への 関連性	整備基準に従って建築物を整備することにより、障害者や高齢者を含むすべての区民が、公共的性格を持つ建築物を安全かつ快適に利用することができる。							

1 必要性・妥当性		5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する
区の施策目標の実現に寄与しているか	している		

判断理由

近年、民間施設整備補助事業の利用はないが、事業の必要性は増している。

2 有効性・適格性		5	
-----------	--	---	--

経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	該当なし
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	該当なし	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ある
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	明確
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確

判断理由

バリアフリーのまちづくりに必要な事業である。

3 効率性・経済性		5	
-----------	--	---	--

類似する補助事業がないか	ない	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	している
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である		

判断理由

区民の方が使いやすくなるように、平成28年度に要綱を改正したが、積極的なPRに努める必要がある。

<p>【評価結果】</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">現状維持・拡充</p>	
--------------------------------------------------------------------------	--

中間・最終年度の講評	利用が少ないため、区民が利用しやすいように工夫する必要がある。
------------	---------------------------------

今後の方向性	区内の小規模店舗や医療機関等を、すべての区民が安全かつ快適に利用できるバリアフリー化を目指し、制度の周知をさらに徹底していく。
--------	-----------------------------------------------------------------

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する	部内優先順位					
事務事業	福祉のまちづくり整備事業（バリアフリーマップ運営）					2		
事業概要	高齢者、障害者、乳幼児を連れて方などが安心して外出し、行動範囲を広げられるように、区の施設、その他の公共施設、駅、民間施設等のバリアフリーに関する情報をホームページ上に公開している。					主管課・係（担当）		
						厚生課厚生係		
						5608-1163		
施策への 関 連 性	バリアフリーマップを墨田区ホームページにて公開するとともに、視覚障害者のために、地図などの画像ではなく「ことば」による道案内を行う「ことばの道案内」を公開することにより、安心して外出し、行動範囲を広げられる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	地域に密着した詳細なバリアフリー情報を提供しているところはなく、区が積極的に情報発信を行う必要がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	バリアフリーマップ掲載施設箇所数				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		196	37	目 標	180	181	189	190
				実 績	180			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	191	192	193	194	195	196
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	掲載施設数の増加が区民満足度を高める1つの指標となるため。平成30年度に区から現状掲載されていない民間施設に掲載の有無を調査する予定である。それ以外の年度は、申し出があった場合に掲載する。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31		
			目 標					
			実 績					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標								
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
財 政 面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,148							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
バリアフリー情報の発信は重要であるため、区は積極的に情報発信を行う必要がある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	有効性 適格性
ホームページにアクセスしやすいように、さらに見やすいページ作りが必要である。		5	5	5	評価結果 5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
地域に密着した詳細なバリアフリー情報を提供しているところはない。					
中間・最終年度の講評	施設及び施設内の設備の変化があるため随時修正していくことが重要であるが、民間企業の協力を得られない場合もあり、理解を得られるよう努力する必要がある。				
今後の方向性	利用者によりわかりやすいマップづくりを推進していく。				